

<p>【会議日時及び場所】 日時 2023年2月10日（金）14時～16時 場所 町田市庁舎 8階 会議室8-2</p>
<p>【出席者】（敬称略） ■委員（※はオンラインでの参加） ※凶司直也（委員長）、※寺田徹（副委員長）、※柏木千春、伊藤亨、※坂本愛、※新倉敏和 ■事務局 守田担当部長、杉山課長、牛腸担当課長、田村担当係長、喜多担当係長、富高担当係長、増田主事 ■傍聴者 0人</p>
<p>【資料】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・次第 ・資料1 町田市里山環境活用保全計画推進委員会設置要綱 ・資料2 町田市里山環境活用保全計画推進委員会委員名簿 ・資料3 町田市里山環境活用保全計画（概要版） ・資料4 重点事業進捗状況確認シート ・資料5 リーディングプロジェクト進捗状況確認シート
<p>【議事要旨】 事務局から 2022年度の事業の進捗について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・重点事業の進捗について ・リーディングプロジェクトの進捗について ・質疑応答及び意見交換
<p>1 開会 ・経済観光部北部・農政担当部長からあいさつ</p>
<p>2 委員長・副委員長の選出 ・凶司委員を委員長に選出 ・寺田委員を副委員長に選出</p>
<p>3 委員長・副委員長あいさつ ・委員長、副委員長からあいさつ</p>
<p>4 議事</p> <p>1. 重点事業進捗状況確認シートについて</p> <p>①委員 山林と農地の再生・整備に取り組むところで、相原エリアの民有人工林の間伐を実施するとなっているが、間伐材はどうなったのか。売却して収入になったのかそれとも放置されているのか教えてほしい。</p> <p>②事務局 相原エリアの大地沢青少年センターに隣接する民有林の間伐している。間伐材は、大地沢青少年センターで使用する薪やイベント時に使う材料として活用している。</p>

- ③委員 ナラ枯れの対策もやるとのことだが、ナラの木は薪としてよい木なので、ふるさと納税の返礼品に使うとかに運用して、そのお金が次の植林に回していける仕組みが作られればベストではないか。
- また、今はキャンプブームということもあるが、伐採作業を手伝え伐採木を薪用にもらえるという仕組みにすれば作業に参加する人も増えてくるのではないかと思う。
- 更に、体験させてほしいと言う声も聞く。せっかく出た木材は廃棄ではなく再利用する、あるいは、利益を得るような仕組みを作れるとよいと思う。
- ④事務局 小野路エリアで活動する団体は、民有山林のコナラなどを伐採してシイタケの椀木を作って市内の福祉施設に椀木を売っている。
- 東京都でも伐採した広葉樹から生産したシイタケ原木や薪に対する補助制度を今年度、新たに作っている。
- ⑤委員 椀木に関していうと、収穫が終わった木をどうするのか考えてもらいたい。再々利用も考えないと、そのまま放置されてしまっているのでは勿体ないのでその辺も考えてもらいたい。
- ⑥事務局 カブトムシを飼っている人が、そういう木が良いという話もあるので、とにかく最後まで使い切るということは追及していきたい。
- ⑦委員 今の話の中で、シイタケの椀木の話が出ていたが、里山の山林の木がかなり大きくなっていて太いので、シイタケの椀木に使えるものは本当に30cmから40cmぐらいまでで、もっと大きい木になってしまうと下の方は使い道がないという状態になってしまう。そういった木は薪にするなどして活用してもらいたい。
- それから剪定枝資源化センターがあり、今肥料の高騰が進んでいる中、循環型農業を進めて行かなくてはならない。今、搬入量が減っていているのでそういった所にも持ち込んでいってもらいたい。
- ⑧事務局 基本的にはなるべく出てきた木については使い切るということを追求していきたいと考えている。おっしゃるとおりクヌギ、コナラはかなり大径木になってきている。
- 幹の部分でナラ枯れしている所は除いて、材として家具に出来ないか家具メーカーと検討している。枝葉の部分で直径が10cm前後のものは、シイタケの椀木として活用し、先の部分は現在放置している状況なので、それを剪定枝資源化センターに持って行けば枝の太い部分と枝先が活用できると思っている。
- 環境資源部と連携を図りながら進めていきたいと考えている。
- ⑨委員 質問だが、「まちだの里山の戦略的な情報発信」の中で、企業等へ情報を発信とあるが、企業と言うのはPR会社とかそういうところなのか、戦略的というのはどういったところなのか知りたい。

- ⑩事務局 特にどこの企業とかに限ったことではないが、まずは、まちだの里山を知ってもらうことが重要なので、先ほどのメンマの話为例に挙げると、こういった取組をしているということを市内の飲食店業の方々に知ってもらうことが次につながる。
また、観光ルートであれば市内外の人に発信して知ってもらうなど、市内外に関わらず、先ず知ってもらうことが重要と考えている。一つ一つのコンテンツによってどこがターゲットになってくるのが重要になってくるのかなと思う。
- ⑪事務局 補則すると、PR会社に発信していく方法もあるかも知れないが、最終的には企業などに里山の資源を事業の一環として使ってもらえるようにしたい。
情報が上手く届くように発信していきたいと考えている。
- ⑫委員 目標を超える実績があったということは良かったと思う。私からは質問が2つあり、観光を専門としているので先ずは、観光モニターツアーをやってこられたというのが、最終的な目標は何か。例えば町田市の魅力を知って定住をしてもらうことなのか、外部から、例えばインバウンドとかで町田に来て滞在してもらって消費を促していくようなことを意識しているのか。
どっちを目指していて今回のモニターツアーはどのようなターゲットを設定してその人たちの声を聞いているのか、ルートの開発においてどういう意図をもって組み立てていったのか。
- ⑬事務局 最終の目標というかメインターゲットは、定住と言うよりはリピーターとして町田の里山を好きになってもらって何度でも訪れる人を増やしていくところである。
例えば、毎週里山に訪れて活動してもらい、あるいはその活動などを個人のSNSでその人たちの言葉で発信してもらおうということを考えている。
当初の目標としてはなるべく若い世代、大学を卒業して社会人になったぐらいの世代の女性をターゲットとしていたが、開催日の関係でそういった方々は少なかったが意図としてはそこを考えて実施した。
- ⑭委員 週末活動で部活動のような感じで集まってくれる人たちの意見や、どういった層がそういった活動に関心を持つのか、どういったコンテンツだったら喜んでいただけるのかということが重要だと思う。結構そういったモニターツアーを行政主体でやることは多いが、やって終わり感が多いので本気度を知りたい。
- ⑮事務局 参加費は無料だが、かなり詳細なアンケートを取って実施したツアーなので、その結果はまだ届いていないが、その結果を見て次の展開を考えていきたい。
今回のツアーは、多摩地域の商工会議所、JA、観光協会などで構成する多摩観光推進協議会が主体として実施しているところに我々も連携した。勿論、やりっぱなしにならないようせっかく頂いたアンケート結果を活用していきたい。
- ⑯委員 実際に販売して旅行会社で行っている、お客さんに支持される企画を参考にされるとよ

い。

- ⑰事務局 実際この業務は観光ツアー会社が行っていて定例の商品として開発し、シーズンごとに引き続き実施したいという話があった。
- ⑱委員 山林と農地の再生と活用のところで、小野路エリアで新たに2団体が交付金を活用した整備を始めたと説明があるが、国の交付金の事業は整備が最終形だが、整備の後はエリア全体でこういうゾーンになったらいいと言う理想的な絵姿があって、そのためにここを整備してくださいという形なのか、パッチワークのように団体ごとに違った活動をやって最終的な形は関係ないのか。
- ⑲事務局 後者のような形をとっている。使いたいエリアを団体が整備をして活用するという形をとっている。また、新たな散策ルートを整備していき、その道沿いに放置竹林があったりするので整備していく。
- ⑳委員 全体的な姿と言うものはないのか。
- ㉑事務局 全体的な姿はないが、山林の整備については林野庁の決まったルールに則って数値を設定して毎年指標を取っている。整備後の状態が大幅に違わなければいい。町田市の里山の計画に沿った方向で進めてもらえれば、あとは活動団体に委ねている。
- ㉒委員長 委員の質問の補足として、農地の場合、集落なり個々の農家さんが集まって水や水路の維持管理など面的にカバーされている。
森林の場合は、バラバラになりがちなので森林組合が、面的な作業のアプローチとその先の展開をおそらく見据えながらやっている。
それに比べると里山は主体が不在になりがちで、私有地も含めながらなので計画も曖昧になりがちなのかなあと思う。後で皆さんと議論できればと思っている。
- ㉓副委員長 個々の取組みは魅力的で、町田市ならではの家具やメンマで竹林の整備など広がりがありそうな活動が見えてきている。また、元からある団体も発展している。
あと、今までの指摘のあった話と近いが、バラバラと活動しているように見えるので、概念的でも町田の里山の整備として、空間や利活用を全体としてどういった方向に持って行くのか一枚の絵の中に示されているとよい。
例えば、広葉樹林であれば「町田市でこういう活用をしていく」というのがあるとよい。剪定枝資源化センターがあるのならそこに回す、良質な材であれば家具にする、枝葉のものは堆肥にする、物の動きの利活用を循環とまでは言わないが示せるとよい。
また、スギやヒノキであれば材も違うし使い道も変わる。マテリアルからエネルギー利用まで、多種多様なものがある中で、全体として色々な手を使って里山を回そうとしている様子が描かれ、その中で個々のケースを位置付けてほしい。全体として町田の里山の保全利用が明確になってきているので最終的なゴールの見せ方ができると思う。

それから、気候変動や生物多様性について、企業の興味関心はかなり高い。国際的に財務情報の開示を求められていて、企業活動の中で炭素をどれくらい出しているのか、生物多様性についてどれだけ対応しているのか、開示しなくてはいけなくなってきた、国際的な枠組みがかなり整備されつつある。

社員のボランティア活動は昔からあるが、より経営の一環として里山への関与を強めていけるのではないかと。数年先になると思うがそういうところにもチャンスがあるので、広い目線を持って情報収集した方がよい。

②④事務局

取組のバラバラ感は我々も常々感じている。

上手く情報発信ができればよいと思っている。SNSの発信は一つの取組なので、もっとトータル的なところは考えていく。民間でやっているところを我々ももっと勉強して助言いただきながら戦略的に考えていきたい。

今年度は可能性があるところから取りあえずやっつけていこうと始めた。そういった所が上手くまとまって、次の後期5ヶ年計画で発信できればステップが上がるのかなと思っている。

針葉樹の所ではカーボンオフセットの関係で、ある程度制度設計ができており関心の高い企業はあると聞いている。東京都の区部との連携の中で、区部が排出しているCo2が大きいので、区部の自治体が多摩エリアの針葉樹林に注目していることがわかった。東京都の森林部門とは多摩の広葉樹、里山林を上手く何か仕組みとして作ればと話をしている。

②⑤委員長

山林や竹林の再生・整備の中で、林地を伐採してシャインマスカットに活用という話があったが、その辺りの地目は何か。

②⑥事務局

地目は農地である。

②⑦事務局

今まで借り手もいなかったもので、市の予算で年2回草刈をやっていた場所である。そういう所をシャインマスカットの栽培で使ってくれることになったので、ある意味双方ウィンウィンの関係となった。

②⑧委員長

最適農地利用の観点から使えない山をどうするのか。グレーゾーンの山を総合的な管理をどうするかという話が出てきている。

農地か林地かの見分けのつかない土地をどう仕訳直していけばいいのか。農と林を別にやっているとどうしてもカバーできない所が出てくる。この計画を元に両方見据えて利活用を再考すべきではないか。かなり先にいっているが、これからはどこの自治体もやらなくてはならなくなっている。町田市としてトライアルしながらでも色んなところで手伝えるよう、プロセスやノウハウを、丁寧に記録を取ってってもらいたい。これからの土地利用の在り方も考えなければいけない。

もうひとつは、企業と連携をしていく中で千葉県いすみ市を視察した。倒木林や放置杉を岐阜県の企業が圧縮して机や椅子など家具に利活用するなどチャレンジしている。特

に興味深かったのは、商工会議所に入っている木工所の若手社員がデザイナー、住宅メーカー、運送業者など色んな主体と連携して取組みをしているので盛り上がってきている。

地域の産業全体を元気にする循環を意識して遡及していくと、ストーリーとして里山から広がる可能性が見えてくる。

②事務局

里山には、山林、農地、宅地、雑種地など色んな地目がある。使いたい人と使ってもらい人を丁寧に繋いでいくことが行政の仕事なのかなと思っている。前に山林バンクという制度を作ったが山林だけに固めると広がりなくなる。エリア全体をワンストップで受け止めて繋いでいって事例を重ねていき、その辺の記録はしっかり取っていって振り返りながら分析していく。

2点目の企業連携については、岐阜県の飛騨市をモデルにしたいと考えている。ヒアリングした企業によると、木を切る川上、製材する川中、販売する川下を上手く繋げてやっていく必要がある。町田には川上がないが、川中と川下を上手く繋いでいってそれぞれが何らかのメリットや収益があげられるよう意識してやっていきたい。

2. リーディングプロジェクト進捗状況確認シートについて

①副委員長

小山田エリアの拠点については、リーディングプロジェクト全体においてもかなり大きな目玉になると思うが、ワークショップにはどういう人達が来たのか、また住民はどのような意見をもっていたのか。

②事務局

ワークショップには、上小山田町と下小山田町に在住する36名が参加されており、上小山田町から15名、下小山田町から21名、年齢の構成として下は10代（高校生）から70代まで、20代から50代の現役世代もおり幅広い層が参加している。

住まいも市街化区域や市街化調整区域、居住歴なども多様で、自分が魅力と感じていることが別の視点では課題であることがわかるなど、刺激と発見があったという意見があった。

施設の機能としては、多世代が交流でき、気軽に使える拠点であつたらいいという意見や整備にあたっては道路などのインフラ整備が必要と言う意見が共通している。

③副委員長

実際ツアーも組まれたと聞いているが、小野路に里山交流館があるが、小山田の拠点はどんなものになるのか。同じものを作るのは公共施設としてはよくない。

地元の人にとってどういうコンテンツがほしいのか。どういうイメージがあるのか具体的にあれば共有してもらいたい。

④事務局

飲食や休憩などができる場合は全体に共通した意見だが、小野路は旅籠をイメージした施設なので、小山田はお洒落なカフェをイメージした意見が多いと感じる。

また、木材加工など木材に触れることができる機能や工房などがあるといいという意見、

実際に木工に携わっている方が地域にいらっしゃるの、その人達の活動を繋ぐ拠点となればよいという意見もある。木材活動に限らず、地域で活動する人や団体を繋ぐ機能を持ってもよいのではないかという意見もあった。

あとは、小山田エリアには店舗が無いのでコンビニの様な生活用品や雑貨が気軽に買える場所があれば便利、ちょっとした食べ物や飲み物などが買える場所がほしいという意見は共通している。

⑤事務局 あと、情報発信の機能を持たせるということも施設には必要な機能と言うことで議論している。

⑥委員長 ロードマップ、ワークショップ、飲食、休憩の場所を作っていく、いわゆるハードベース面と、ソフト面では誰がどうやるのか議論しているのか。小野路は地域でやっている。ワークショップではだれがやる問題で言った人が責任負うようになるとしんどくなるので、運営の問題はしっかり話し合われた方がよい。

⑦事務局 第4回ワークショップでは、「誰が」、「誰に」、「何をするのか」という検討を行った。自分事として捉えることが重要で、施設を活用するのは誰なのか誰にサービスを提供するのかという話をしてもらっている。企業に参入してもらおうとか自分たちでやろうとか色々な意見はある。ワークショップの検討内容を参考に、2023年度に施設整備の基本構想を策定したい。事業の手法として民間資本の参入を視野に入れて作っていききたい。

⑧委員 他のエリアの話になるが、いくつか予定目標を下回っているが、何があればクリアできるのか。

⑨事務局 前計画である、「北部丘陵活性化計画」の積み残しがあり、小山田エリアの方でマンパワーの大半費やした。前計画では相原、三輪エリアには関わってこなかったこともあり、このエリアにどういう風に入っていくならよいのか、時間をかけて丁寧に入っていく方向で考えている。

また、相原エリアと三輪エリアでは若干の違いがあり、相原エリアの団体とは一定の距離を保ちながら連携するところは連携していている。

三輪エリアは、居住地と団体の活動エリアがはっきり分かれていて、里山活動でも価値観がそれぞれ違うなど一つにまとまりにくいという難しさがある。

我々がどういう風に立ち振る舞いしていくか大切である。ただ、ニュートラルな人達もいて関係性を作っていけそうな感じもあるので、そういう人達と密に連絡を取りながら、どういう連携どういう方向にしていっていいのか探っていきたい。

⑩委員 進捗状況は後日公開されるのであれば、小山田エリアだけ力入れているように見えるが大丈夫か。全く動いていない訳ではないので、もう少し違う視点から見せる方法があるのではないか。

- ⑪委員 相原エリアについてだが、都立大戸緑地の跡地を東京都が公園化していく。オートキャンプ場や直売所を作る予定。市としても連携しながら里山の再生に尽力いただきたい。
- ⑫事務局 都立大戸緑地に関しての動きを情報収集しながら連携できるところはしていきたい。
また、大地沢青少年センターは2022年度まで市の直営施設だったが、2023年度から指定管理制度に移行する。全国でも子供たちの野外体験施設など実績がある事業者が指定管理者になるので連携していきたい。
相原エリアの里山活動の拠点として、大地沢青少年センターと隣にある都立大戸緑地この辺りとの連携が今後のキーになってくる。
- ⑬委員 三輪エリアの活動団体でも高齢化によりと言う話が出てきたが、計画策定段階でも高齢化については懸念されていたことだが、新しく活動を開始した団体でもそれなりに高齢化は進んでいるのか。
- ⑭事務局 活動の中心になっている人は高齢の方が多い。三輪エリアでは、以前、高齢化などによって活動が継続できなくなった団体があり、整備ができていた所が手つかずになってしまったと聞いている。
その様な中で、奈良ばい谷戸で活動するNPO法人は若い人たちが入ってきている。モデルケースとしてどういう取組みをしているのかは伝えることはできると思う。
- ⑮委員 10年後を見据えてやらないと、言葉だけが先行して動かなくなる。ビジネス化して対価が得られるものであれば継続性を高められる。
そういった所からメンマや家具が出てきたと思うので、その辺りから仕組み作りを今から仕込んでいかないといけない。ボランティア依存と高齢化で前に進めなくなって挫折してしまうケースがよく見られる。そのあたりを考えていてもらいたい。
- ⑯委員 小野路エリアの散策ルートの再生のところで観光まちづくりリーディングプロジェクトでも「おくまち」との連携強化と言っている。今度「おくまち」として小野路の展示をする企画もあるようだが、今、町田の里山と言う所ではこの4エリアを指しているのかも知れないが、町田の里山がこの4エリアなのだという所をもっと見せて行ければいい。
相原のイベントとかも情報が届かずPRできなかったのも、観光とも連携が上手くできればそういう所も見せていけると思う。
- ⑰事務局 「おくまち」は概ね里山エリアでいいのかなと理解している。観光まちづくりリーディングプロジェクトで意識しているのが、町田駅周辺を中心街から、鎌倉街道を伝って薬師池公園など整備された公園があり、さらに奥に行くと小野路方面の「おくまち」があるというイメージである。
観光まちづくり課とは、連携していった情報共有を図っていきたい。

⑱委員長	全体を通して意見はあるか。
⑲副委員長	<p>全体のことと小山田エリアの拠点について話したい。</p> <p>まず、小山田エリアについて、ワークショップの中で地域の公共施設として、生活環境の改善に資する機能を入れてほしいとの意見があった。その一方で、町田の里山の活用を進めて行くための拠点としての機能、重点事業の中で広葉樹の活用を進めて行こうという視点を必ず入れなければならない。</p> <p>飲食機能を入れる場合にも、広葉樹材の付加価値を高め、それを見せるための展示的空間を兼ねるとよい。例えば、町田の広葉樹を使った家具とか食器などを使ったカフェなどを作れば、小野路との差別化も図れる。里山活動の成果をきちんと見せられる施設になればよい。</p> <p>地元のワークショップではこの視点は出づらいかも。里山活用の拠点となるよう調整が必要。</p> <p>全体像の話だが、町田の里山はこうあってほしいというイメージが頭の中にあってもビジュアル化するのが難しいと思う。</p> <p>参考までに、里山資本主義で有名な岡山県真庭市のビジョンがある（画面共有）。環境省の地域循環共生圏事業で描かれているものだが、具体的な地域や厳密な資源の循環とかは描かれていなくても、町田の里山の目指している姿が分ればよい。</p> <p>小山田エリアの拠点等がハブとなって機能すれば、だんだん里山再生のイメージができてくると思う。全体像が示されていないので町田全体の里山をどうするかちょっと見えてこないのかと思う。</p> <p>また、様々な里山活動が新しい産業を生み出していく視点が大切で、地域振興だったり、次の段階になるが農業振興であったり、バイオエネルギーであったり、規模が拡大すればどんどん広がっていく。</p> <p>ビジョンなので少し長期的な視点で考えてもらい、まずは頭の中にあるイメージを分かり易く一枚の絵で示すと市民にも方向性が伝わると思う。</p>
⑳委員	<p>副委員長の示されたところ、最初のモヤモヤ感がまさにそこで、リーディングプロジェクトを含めて、総合的なプロデュースをする役割を持たないと、ダイナミックな動きにならない気がする。</p> <p>どういう風にしていくかは、今後考えて行く必要がある。</p>
㉑委員長	<p>色々なご意見ありがとうございました。</p> <p>農山村の里山のしつらえは見える化が進みつつあるが、都市郊外の里山のしつらえは今後色々アレンジが必要。農山村とは役割が違って出にくいところがある。おそらく相原エリアや三輪エリアへのアプローチの難しさや苦労がまさにそこだと思う。そういう意味では、農山村バージョンの里山循環を学んでいって飛騨市や真庭市と交流していくのもいい。</p> <p>自分の足元の資源を見つめていくと捨てたものではないので、何ができるか考えて進めて行ければ、見えているものが具体化されると分かり易くなる。地域のイメージを共有</p>

しながら進めて行くことも必要だと思う。

今年も色々チャレンジして取り組んでいるので、少し学び合いの場を次年度に向けて始めていってもいいのかなと思う。

4. 閉会